

2024年 第2問

平重衡
焼失

東大寺の再建に関する次の(1)~(4)の文章を読んで、下記の設問A・Bに答えよ。解答は、解答用紙(口)の欄に、設問ごとに改行し、設問の記号を付して記入せよ。

(1) 朝廷は、1180年に焼失した東大寺の再建を、人々から広く財物の寄付を集めておこなうこととした。その責任者に任じられた重源は、宋に渡った経験もあった。 3回

勸進

(2) 重源は、後白河院から庶民に至る広範な人々に寄付をよびかけた。 これを受けて藤原秀衡は奥州産の金の寄付を約束し、源頼朝は米や金、絹など、たびたび多額の寄付をおこなった。

朝廷の支持

(3) 大仏の鑄造は当初、技術者不足で難航していたが、重源は、宋から来日していた商人で、技術にも通じていた陳和卿を抜擢し、これを成功させた。 また伽藍の造営には大仏様とよばれる建築技法が用いられた。 宋由来の技術

(4) 1191年、頼朝は周防国で伐り出された材木を翌年中に東大寺に運搬しよう、西国の地頭に命じた。さらに1194年には、畠山重忠や梶原景時ら有力御家人たちの責任で仏像や伽藍を造営するよう命じた。

封建的主従関係 御恩と奉公

設問

A 東大寺再建に用いられた技術の特徴について、その背景にふれながら、2行以内で説明せよ。

B 源頼朝は東大寺再建にどのように協力したか。頼朝の権力のあり方に留意し3行以内で説明せよ。

米、金、絹

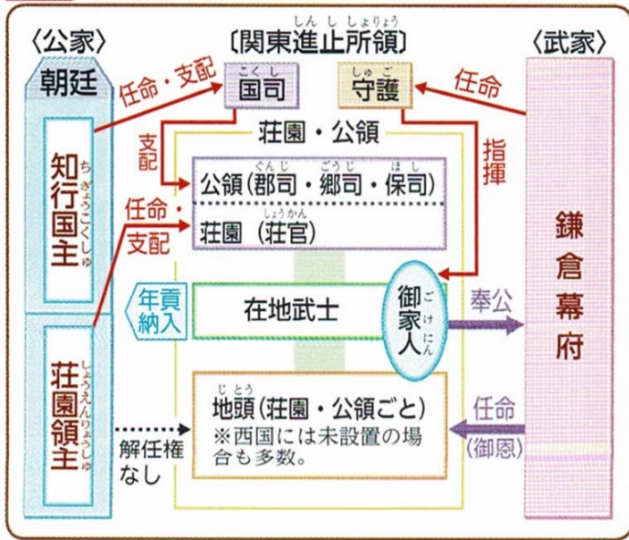
たびたび寄付

+

御家人にも協力

させる

4 朝廷と幕府の二元支配



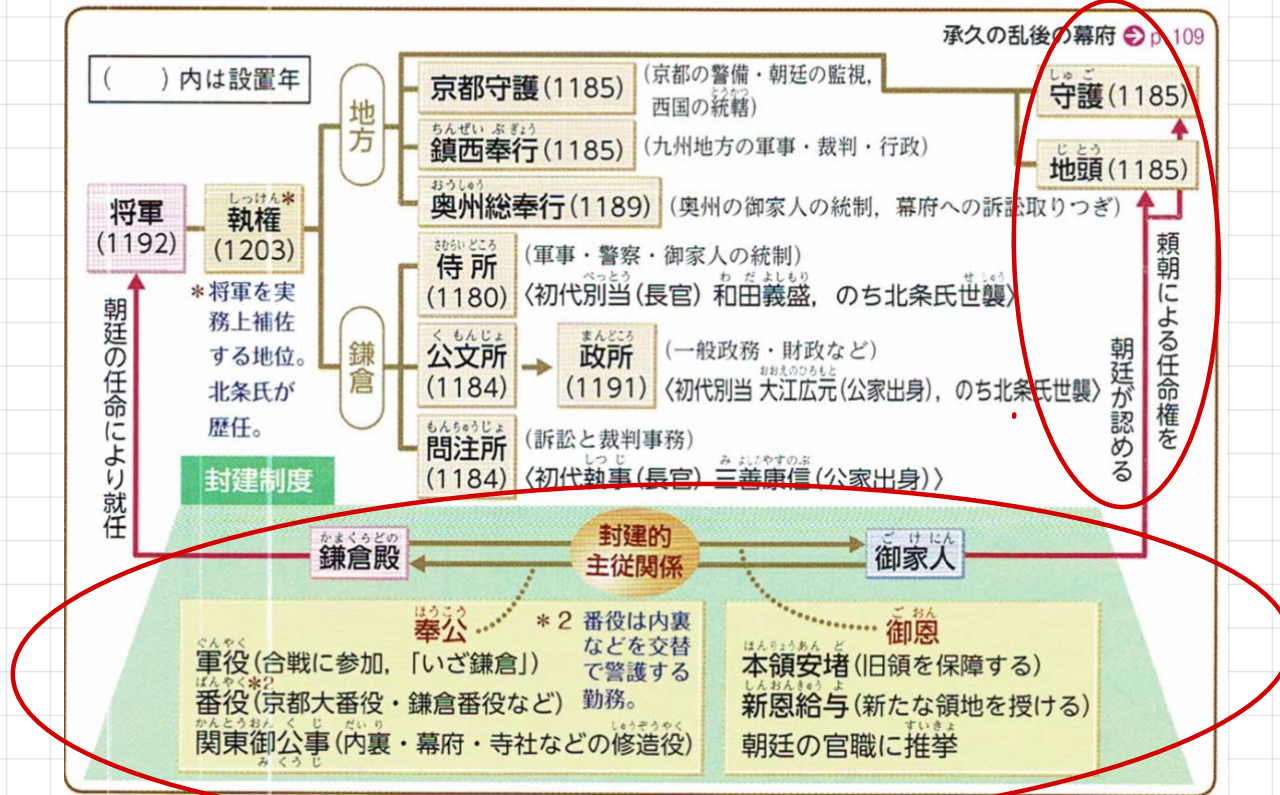
2 鎌倉文化(建築・彫刻)まとめ表

特徴	天平復古と宋様式の導入 ① 13～14世紀前半の文化 ② 京都・鎌倉における公武二元文化 ③ 奈良時代の伝統継承と新時代の精神を反映(宋・元文化の影響)
建築	【大仏様】東大寺 南大門 【禅宗様】円覚寺 舍利殿 【和様】石山寺 多宝塔 三十三間堂(蓮華王院 本堂) 【折衷様】観心寺 金堂
彫刻	【東大寺】南大門 金剛力士像(運慶・快慶) 僧形八幡神像(快慶) 重源上人像 【興福寺】無著・世親像(運慶ら) 金剛力士像 天灯鬼・龍灯鬼像(康弁ら) 【その他】浄土寺 阿弥陀三尊立像(快慶) 六波羅蜜寺 空也上人像(康勝) 明月院 上杉重房像 高德院 阿弥陀如来像(鎌倉大仏)

p.116 ~ 117

⇒ p.107

承久の乱後の幕府 ⇒ p.109



A 守護と地頭の権限

	守護(国地頭)	地頭(荘郷地頭) ⇒ p.109
範囲	諸国に1人 (数か国を兼帯することもある)	公領(郡・郷・保)と荘園(平家没官領と謀叛人跡地)
出身	有力御家人	御家人
職務	大犯三力条 ①大番役の催促 ②謀叛人の逮捕 ③殺害人の逮捕 在庁官人への指揮権と大田文作成	①年貢の徴収と納入 ②地域の治安維持 ③新田開発や勸農(年貢納入をめぐる荘園領主との紛争発生)
収入	特になし(経済力のある有力御家人が任命される)	従来の荘官・郷司などとしての収益を継承